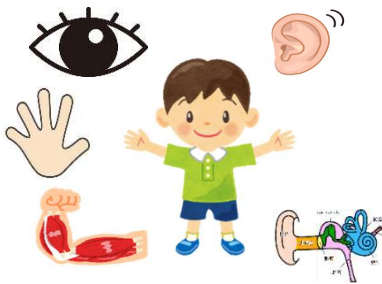


感覚統合についてのお話し vol.2

当施設では子ども達を感覚統合理論の視点からも診ています。以前7月号では子どもたちの困った行動が『**感覚**』の問題で起きているかもしれないこと、「困った子ではなく困っている子」「感覚統合ってなに?」といった内容でお伝えさせていただきました。今回はそれぞれの感覚の『**感じ方のタイプ**』と『**感覚統合の発達**』についてご紹介させていただきたいと思います。

☆前回のおさらい☆



私たちは、色々な感覚の刺激を受けて生きています。感覚には「視覚」、「聴覚」、「嗅覚」、「味覚」、「触覚」、「固有受容覚」、「前庭覚」があります。私たちは、これらの情報を受け取り（入力）それらの情報を整理して（処理）、その場に適した行動の調整（出力）を行っています。このプロセスのことを『**感覚統合**』と言います。

<感覚の感じ方のタイプってどういう種類があるの?>

敏感 → **過反応（過敏）**
イライラや癩癩（かんしゃく）
いやな刺激を回避する

鈍感 → **低反応**
刺激に気づきにくい、反応しない
探求
感じにくい刺激を求める行動



感覚のタイプとしては大きく「敏感（感じやすい）」と「鈍感（感じにくい）」に分けられます。耳で聞く「聴覚」を例にとると敏感だと、耳ふさぎがある、大きな音でパニックを起こす、特定の音の苦手さなどの傾向や、鈍感だと大音量で音楽を聞く、呼んでも振り向かないなどのような傾向がみられることがあります。

裏面へ続きます。

※見学・体験の対応行っています。月～金（祝日含む）にお電話ください。

株式会社ライフウェル こども発達支援ステーション宇土

児童発達支援事業所 パレット宇土 児童発達支援管理責任者 長谷川 仁

放課後等デイサービス キャンバス宇土 児童発達支援管理責任者 中村 裕美

〒869-0422 熊本県宇土市入地町 163 番地 1 電話 0964-27-4869



◎ホームページのURLです。見てみてください。



★感覚統合の発達★



感覚統合では、図④のように「感覚統合はピラミッドのように発達する」と言われています。土台となる「前庭覚・固有受容覚・触覚・聴覚・視覚」を基礎としてピラミッドを積み上げていくというイメージです。子どもたちはこの世に生まれた直後から様々な感覚を感じ、重力に抗する中で発達をしていきます。

発達の中で感覚のつまずきがあり、図⑤のように積み上げるブロックにゆがみがあると環境への不応適により、経験不足となり不器用さにつながります。その結果失敗体験を積み重ね、自尊心や自信の育ちにくさを招くことがあります。

次回の感覚統合についてのお話し vol.3 では、姿勢の発達、目と手の協調の発達などを細かくお伝えしようと思います。

★お家でできる感覚遊び★

☆手押し車☆

この遊びの効果としては、重力に抗してお腹を持ち上げる事で姿勢の発達に欠かせない体幹の保持と肩甲骨を前に押し出した状態を保持することで手の発達にもつながる肩甲骨の保持、足を持ってもらうお友達とのコミュニケーションがあります。また、手をついて体を支える力を育てる事で、転んだ時に自分の体を守れることやマット運動や跳び箱の上達する土台にもなります。

☆やるときのポイント☆

- ・視線は手と手の間を見る
- ・腰が反りすぎないように
- ・腰が反ってしまうときには足首より体の中心の膝や太ももを持つ、お腹を支えてあげるなどお手伝いしてあげてください



好ましくない姿勢↓↓↓
腰が反り、肩甲骨が前に押し出せていません。

